

日本摂食嚥下リハビリテーション学会 eラーニング対応

第3分野

摂食嚥下障害の
評価 — Ver. 3

日本摂食嚥下
リハビリテーション学会 編集

e-learning

医歯薬出版株式会社

- 主訴・病歴・問診の目的，意義がわかる
- 主訴・病歴・問診の実際がわかる

▶ Chapter 1

病歴聴取・問診の目的 → (eラーニング▶スライド1, 2)

主訴から摂食嚥下障害が疑われる場合，詳細に病歴を聴取し問診を行うことで，見逃されていた摂食嚥下障害が発見されることがある。摂食嚥下障害は口腔から胃までの幅広い経路において，精神的なものから痛まで多岐にわたる原因が考えられるため，医療面接による絞り込みは，摂食嚥下障害の診断を進める第一歩であり，スクリーニングとしての役割も担っている(表1)。

特に脳血管障害の既往，神経筋疾患，頭頸部痛などがある場合，摂食嚥下障害の存在を常に念頭に置いて病歴聴取および問診に当たる必要がある。高齢者の診療に際しては，明らかな既往歴がない場合も，加齢による嚥下予備能の低下を念頭に置き診療に臨むべきである。

1. 摂食嚥下障害のスクリーニング
2. 見逃されていた摂食嚥下障害の発見
3. 摂食嚥下障害の原因診断の足がかり

表1 病歴聴取・問診の目的

▶ Chapter 1の確認事項 ▶ eラーニング スライド1, 2対応

- 1 障害診断という観点における問診の重要性を理解する。

▶ Chapter 2

摂食嚥下障害の主訴1—先行期～口腔期の障害が疑われる訴え—

→ (eラーニング▶スライド3)

摂食嚥下障害の診察は，患者および介護者の主訴を聞くことから始める。一般的な先行期～口腔期の障害の際にみられる主訴を以下に列挙する(色文字は咽頭期，食道期の障害と共通)。

- 1) 食物が口からこぼれる
- 2) 口腔内が乾燥する
- 3) 食物が噛みづらい
- 4) 咀嚼に時間がかかる
- 5) 飲み込みづらい
- 6) 口腔内に食物が残る
- 7) 自発的に食べない(拒食がある)
- 8) 食事時間が以前より延長した(咀嚼に時間がかかる)
- 9) 体重が以前より減少した

学習目標
Learning Goals

- ・ 摂食嚥下障害を疑う患者の全身症状，局所症状の評価ポイントがわかる

▶ Chapter 1

摂食嚥下障害を疑う患者の全身症状 → (eラーニング▶スライド2)

摂食嚥下障害を疑う患者の全身症状として一般所見のポイントは，発熱，血圧の変動，頻脈，皮膚や粘膜の乾燥，るい瘦，浮腫などを評価し，脱水・低栄養の徴候(表1)があるかどうかを確認することである。

Chapter 1の確認事項 ▶ eラーニング スライド2対応

- 1 摂食嚥下障害の全身症状を理解する。
- 2 脱水・低栄養の徴候を理解する。

▶ Chapter 2

摂食嚥下障害を疑う患者の呼吸器症状 → (eラーニング▶スライド3)

摂食嚥下障害を疑う患者の呼吸器症状として身体所見のポイントは，全身倦怠感，発熱，湿性咳，呼吸困難，チアノーゼなどを評価し，誤嚥性肺炎の徴候があれば血液検査や胸部X線撮影を行う。

Chapter 2の確認事項 ▶ eラーニング スライド3対応

- 1 誤嚥性肺炎の徴候を理解する。

▶ Chapter 3

摂食嚥下障害を疑う患者の口腔内所見 → (eラーニング▶スライド4)

摂食嚥下障害を疑う患者の口腔内所見のポイントは，食物残渣，菌垢，舌苔，口臭，齲歯，歯周炎，義歯の適合性，唾液の性状などを評価することである。

Chapter 3の確認事項 ▶ eラーニング スライド4対応

- 1 摂食嚥下障害を疑う患者の口腔内所見のポイントを理解する。

表1 脱水・低栄養の徴候

・ 発熱	・ 皮膚や粘膜の乾燥
・ 血圧の変動	・ るい瘦
・ 頻脈	・ 浮腫



図2 改訂水飲みテスト (MWST)

冷水 3mL を口腔底に注ぎ嚥下を命じる。
嚥下後反復嚥下を 2 回行わせる。
評価基準が 4 点以上なら最大 2 施行繰り返し、
最も悪い場合を評点とする。

評価基準

1. 嚥下なし，むせる and/or 呼吸切迫
2. 嚥下あり，呼吸切迫 (Silent Aspiration の疑い)
3. 嚥下あり，呼吸良好，むせる and/or 湿性嘔声
4. 嚥下あり，呼吸良好，むせない
5. 4 に加え，反復嚥下が 30 秒以内に 2 回可能



図3 フードテスト (FT)

プリン茶さじ一杯 (約 4g) を舌背前部に置き嚥下を命じる。
嚥下後反復嚥下を 2 回行わせる。
評価基準が 4 点以上なら最大 2 施行繰り返し、
最も悪い場合を評点とする。

評価基準

1. 嚥下なし，むせる and/or 呼吸切迫
2. 嚥下あり，呼吸切迫 (Silent Aspiration の疑い)
3. 嚥下あり，呼吸良好，むせる and/or 湿性嘔声，
口腔内残留中等度
4. 嚥下あり，呼吸良好，むせない，口腔内残留
ほぼなし
5. 4 に加え，反復嚥下が 30 秒以内に 2 回可能

▶ Chapter 7

改訂水飲みテストおよびフードテストの評価の流れ (図4)

→ (eラーニング▶スライド8)

改訂水飲みテストおよびフードテストは，いずれも結果が良好であれば最大で 3 回繰り返して最低点を評点にする。よって，3 回とも良好に嚥下できないと，4 点もしくは 5 点の評点とはならない。

▶ Chapter 7 の確認事項 ▶ eラーニング スライド 8 対応

- 1 MWST，フードテストの評価の流れと評価指標を理解する。

▶ Chapter 8

嚥下前・後レントゲン撮影 (SwXP : Pre and Post Swallowing XP) (図5) → (eラーニング▶スライド9)

嚥下前・後レントゲン撮影 (SwXP : Pre and Post Swallowing XP)⁵⁾ は，4mL 液体状バリウムの嚥下前後に側面の単純 X 線撮影を行い，その像の比較および検査の際のエピソードにより評価する方法である。液体の誤嚥判別の感度は 0.84，特異度は 0.94 と報告されている。

▶ Chapter 9

咳テスト (CT : Cough Test) (図6) → (eラーニング▶スライド10)

咳テストは，不顕性誤嚥のスクリーニングテストである^{6~8)}。刺激物をネブライザより噴霧し，経口

医療機器による評価

Lecturer ▶ 中山 洸利

日本大学歯学部摂食機能療法学講座准教授

学習目標
Learning Goals

- 嚥下造影 (VF), 嚥下内視鏡検査 (VE) 以外の医療機器を用いた摂食嚥下機能の評価法の意義と注意点について理解する
- 臨床現場でよく用いられている医療機器を用いた評価方法とその特徴を理解する

▶ Chapter 1

評価法の意義 → (eラーニング▶スライド2)

VF, VEのほかにも医療機器を用いた摂食嚥下機能の評価法があり, VFやVEの補助として実施されている。

使用する医療機器の多くは, 内視鏡やX線撮影装置に比べて安価で, 特別な技能が不要であり, 手軽に短時間で測定が行える。

測定結果は数値で表示されるため, 健常者との比較や介入前後での比較が可能である。

測定結果は, 訓練計画を立案する際の参考にしたり, 訓練成果を検討したり, 患者にフィードバックすることで訓練のモチベーション向上を図ったりといった活用が期待できる。

▶ Chapter 1の確認事項 ▶ eラーニング スライド2対応

- 1 VF, VE以外の機器を用いた評価法の意義を理解する。

▶ Chapter 2

測定結果の注意点 → (eラーニング▶スライド3)

測定結果は, 性別や年齢の影響を受けやすいため, 比較する対象者についてはこれらを考慮することが必要である。たとえば, 女性患者の測定結果を男性健常者の測定結果と比較してはならない。

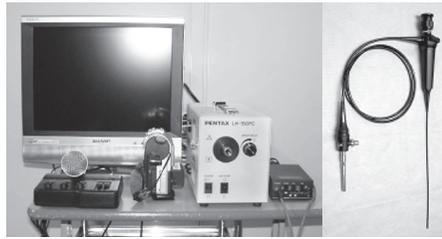
測定には患者の協力が必要なため, 十分な協力が得られない患者では, 測定結果がその患者の能力を反映していない可能性がある。

1回の検査時に2~3回測定を行い, 測定結果の信頼性を確認する。測定結果に大きなばらつきがある場合には, いずれかの測定時に指示された動作を行っていない可能性がある。

測定結果は, その能力の最大値を表しているに過ぎない。つまり, 必ずしも「測定値が低い=摂食嚥下障害」というわけではない。たとえば, 舌圧の測定結果が健常者の平均値より低かったとしても, 通常の食事を摂取するのに必要な力を満たしていれば, 通常の食事を摂取することは可能である。ただし, その場合には「予備力」の低下が疑われる。



電子スコープユニット



ファイバースコープユニット

図1 電子スコープとファイバースコープ

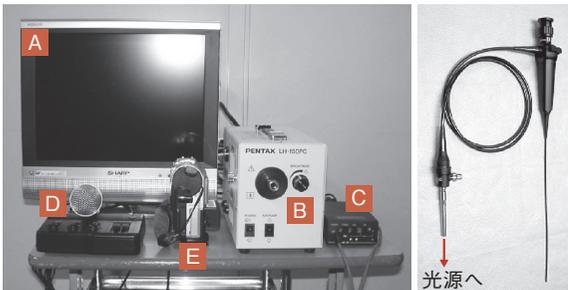


図2-1 嚥下内視鏡のユニットの1例

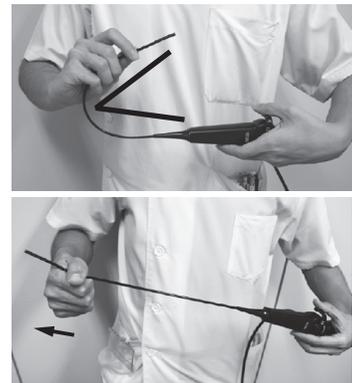


図3 内視鏡取り扱いの注意(禁止事項)



図2-2 訪問診療用に小型化されたユニット

が必須ではない。Eは記録装置であり画像記録メディアであれば何でもよいが、携帯性を考えると小型のものを選択しておいたほうが便利である。

図の右は嚥下内視鏡(ファイバースコープ)である。シャフト部は、小児用には直径約2mmのものも存在するが、通常の内視鏡に用いるものは3~4mmである。

▶ Chapter 5の確認事項 ▶ eラーニング スライド7対応

1 内視鏡検査ユニットの基本的な構成を理解する。